Galeオンラインセミナー
2023年11月28日

米ソ冷戦終結期の日米韓外交と北朝鮮核問題

李鍾元
早稲田大学大学院アジア太平洋研究科

要点

１. 問題関心

・なぜ、冷戦終結と同時に、北朝鮮核問題が浮上したのか

・1989年：　欧州では冷戦終結⇔アジアでは「天安門」と「寧辺」

２. 韓米日の対北朝鮮政策の連携と競合

・韓国：　北方政策の変化／「クロス承認」の方針転換

・米国：　韓国の北方政策を支持し、北の「非核化」を優先

・日本：　日朝の接近／　北方政策と日ソ交渉の競合

３. 米ブッシュ政権内部の対北朝鮮政策論議

・外交派vs強硬派　⇒　強硬派主導で圧迫政策

・北：　核カードの瀬戸際戦略で対抗　⇒　核危機の勃発

資料

１．韓国の外交文書

・現在、1992年分まで機密解除、公開

２．米国

・公刊資料（FRUS）：「Korea」は「1969-1972」で止まったまま

「China」は、カーター政権期（1977-1980）まで

「Soviet Union」は、レーガン政権期（1981-1988）まで

・公文書館や大統領図書館などのウェブサイト

・USDDO（DDRS）など民間のデータベース

盧泰愚政権の「北方政策」の変容

1．「北方政策」の起源は、全斗煥政権期
・1983年6月　李範錫外相の演説で初めて使用
2．全斗煥政権の「クロス承認」（金成浩2019）
・1983年から、「二元的クロス承認」構想
・特徴：　対中改善が先決課題／鄧小平の改革開放に期待
　日本の仲介役への期待（依頼）：　全斗煥・中曽根ライン
3．盧泰愚政権における「クロス承認」構想の変化
・当初（1988～89）は、「時差クロス承認」の方針
　まずは、日中が南北を承認し、後に米ソ
「日中の承認が困難な場合、韓中改善でも日朝承認容認」
・1990年1月には、「クロス承認」の言及を方針から削除
　←　背景に、1989年の東欧革命など状況の急変

日朝交渉への警戒、牽制

1. 「北方政策」の1つの柱は「クロス承認」
   ・「7・7宣言」（1988）
   「中ソとの関係改善に並行して、北と米日との関係改善に協力する用意」
2. しかし、実際には、日朝交渉に警戒、牽制
   ・盧泰愚：　90年5月、海部首相に「緊密な事前協議」を要請
   90年10月、金丸信には、「5つの原則」の提示で、日朝の先行を牽制
   ・韓日が「日朝」と「韓ソ」を相互に牽制する構図
   90年12月、金鍾仁経済首席と武藤嘉文通産相の応酬
   互いに「事前連絡（協議）」を求める
3. 盧泰愚政権は、北の対米・日接近を牽制することで北を南北対話（高位級会談）の枠組みに閉じ込めようとする

「北方政策」の重点が韓国主導で北の圧迫に

1.「北方政策」の様々な側面（考え方）
・政権内部に、強硬、中道、穏健
・中道に分類できる金宗輝外交安保首席の回顧
「北の長期的な孤立を意図したものではないが、
短期的な孤立は必要だと考え、意図した」
2.「統一」への期待感
・1991年7月2日、WHでの盧泰愚・ブッシュ首脳会談
盧：　米との協力による統一の重要性を強調
統一後の米韓関係を米英関係に例える
「北東アジアでどれかの国が支配的になることを防ぐため」
「いつ可能か」との問いに「今世紀が終わるまで」
背景：　前年に米の支援でドイツが短期間に統一実現
・英文会談録（USDDO）は、韓国側会談録より、生々しいやり取り

米国の朝鮮半島政策： 韓国主導の北非核化

１．冷戦終結期の米ブッシュ政権の東アジア戦略
・米国の負担軽減、韓国の役割増大： EASI Ⅰ
　米国の役割は「主導的」なものから「支援的」なものに
・盧泰愚の「北方政策」を支持し、より大きな役割を注文
２．韓国を前面に立てた対北朝鮮政策を推進
・背景に、1989年から北の核兵器開発への懸念（危機感）
・既存のIAEA体制の不備から、包括的な対北核政策を構想
・NSR28（91年2月）： 「包括的関与」（Wit 2004)
　南北対話／米朝国交への動き／在韓米核兵器など
・91年6月から、韓国に「対北イニシアティブ」を促す
　米の意図は、韓国主導で、再処理を含む強い査察
・韓国は、核の負担を危惧したが、「主導」のため、受け入れ

1991年の急進展と米朝

1．核問題の急進展

・91年9月24日、盧泰愚、国連で「核の南北協議」を提案
9月27日、ブッシュの戦術核撤去宣言
10月19日、WP紙の報道：「在韓戦術核兵器の撤去」
12月18日、盧泰愚の「核不在宣言」
12月31日、朝鮮半島非核化共同宣言
92年1月、ブッシュ、ソウルでTeam Spirit演習の中止表明

2．「米朝国交」をめぐる米政府内部の意見対立

・国務省は、「国交をぶらさげる」ことで、「核の放棄」を誘導
⇔ Wolfowitz率いる国防省の反対で、「国交」言及削除

・米朝高官級会談も「1回のみ」：92年1月、金容淳・Kanter

北の生存戦略と核危機の勃発

1．90年代、北の生存戦略

・「二元政策two-track policy」（Mazaar 1995)

核開発： 抑止力と外交カードの両面

外交： 対米、日、南

・北の計算： 核開発と外交の並行が可能と判断

背景： 当時のIAEA査察の緩さ

・北の期待： 非核化宣言と南北対話の受け入れで、

対米接触（関係正常化）の進展を期待

2．しかし、実際には「誤算」の連続

・湾岸戦争後、IAEAの査察強化、最初のターゲットが北

・米朝接触は1回のみで、韓国とIAEAを通じた圧迫のみ

⇒ 93～94年、NPTとIAEA脱退で、「核問題は米朝」間の構図に

参考文献

Mazaar, Michael J. (1995) *North Korea and the Bomb: A Case Study in Nonproliferation* (London: Macmillan).

Wit, Joel S., Daniel B. Poneman, and Robert L. Garllucci (2004) *Going Critical: The First North Korean Nuclear Crisis* (Washington, D.C.: The Brookings Institution Press).

金成浩（2019）「北東アジア冷戦構造変容萌芽期に関する研究―韓国のクロス承認政策を中心として（1983～1987）」『国際政治』第195号

李鍾元（2022）「朝鮮半島核危機の前史と起源」『アジア太平洋討究』44号

李鍾元（2023）「冷戦の変容と停戦体制の持続―統一と共存の葛藤構造」『韓国と国際政治』第39巻第1号〔韓国語〕